

# 基本施策評価シート

基本施策最終評価

A

基本施策通し番号 1

基本施策 結の心あふれる人づくり

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	ふるさとに根ざした特色ある学校づくり	A
施策2	生涯学習の推進	A
施策3	家庭の教育力、地域の教育力の充実	B
施策4	心豊かな青少年の育成	A
施策5	国際化・情報化社会に対応できる人づくり	B
施策6	小中学校等の適正規模化	A

## 成果指標

指標	内容	平成32年度目標	平成30年度末実績	単位	平成30年度の成果の検証
図書館の来館者数	図書館の年間延べ来館者数	87,500	102,043	人	図書館の本を使ったグループ活動の促進や、図書館まわりの開催などで来館者数が増加した。
公民館講座・教室受講者数	各公民館で開催する講座や教室の年間延べ受講者数	27,500	24,423	人	国体の開催による講座数の減少やイベント数の減少により、受講者数が減少した。
国際交流講座開催数	各公民館や生涯学習センターで開催する国際交流講座の開催数	20	41	回	放課後の子供たちの余暇を活用した英語学習や、ALTによる国際交流事業、アジアの文化を学ぶ講座などを開催した。子どもたちに外国語や異文化に触れる機会を設け、多文化構成社会に対する理解を深めた。
ICT機器の活用率	デジタル教科書などが配備された学年における授業日数に対するICT機器を活用した日数の割合	100	小学校 87 中学校 73	%	福井大学と連携するなど、効果的なICT機器の活用についての研究を進めたことで、教員によるICT機器の活用が定着してきた。
「将来の夢や目標を持っている」割合	「将来の夢や目標を持っている」小学校6年生、中学校3年生の割合	小学校 100 中学校 100	小学校 91 中学校 87	%	保育体験や職場体験などをはじめ、夢や志を育む教育を推進したことによって、中学校は昨年度より4%向上し、小学校も90%以上であった。

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、地域や人とのつながりよりも、個人の生活を重視する傾向になるとともに、地域における人間関係が希薄になり、地域や家庭が担ってきた人と人とのつながりの中で人を育てるという機能が弱体化してきている。このため、市では教育理念を掲げ、「結の心」を醸成するために、家庭、地域、学校のそれぞれの教育力の連携を図りながらさまざまな施策に取り組んでいる。</li> <li>・児童生徒数の減少に伴い、学校では適正な集団規模を確保することが困難になってきている。</li> <li>・経済や文化をはじめ多方面で国際化が進んできており、価値観を理解して共存する「多文化共生社会」に対応できる国際感覚のある人づくりが求められている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育では、「ふるさとを知り、ふるさとを創る」活動などを通して、家庭や地域と連携を進める学校づくりが必要である。</li> <li>・学校における適正な集団規模を確保するために、学校再編を進める必要がある。</li> <li>・さらに進展する国際化・情報化社会に対応できる児童生徒の育成と、国際文化や価値観に触れる機会の提供が必要となっている。</li> <li>・生涯学習では、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を地域の中で生かすことのできる仕組みづくりが必要である。</li> </ul>

## 社会情勢・市民ニーズの変化

・道徳の教科化(小学校H30年度、中学校H31年度)やH32年度から実施される小学校学習指導要領による外国語活動の教科化、スマートフォン等の普及や企業等におけるAI導入の進展等により、国際化・情報化社会に対応できる児童生徒の育成が求められ、教育現場からALT配置やICT機器整備充実の要望がある。

・生涯学習の講座や教室については、市民の学びたいものが多種多様化し、かつ、クオリティーが高いものを求められる傾向がある。

・いじめによる事件等が報道される中、保護者、市民の小中学校におけるいじめ事案に対する関心は高い。

## 現在の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板やデジタル教科書などICT機器を一部整備した。</li> <li>・小中学校の適正規模化のため、平成29年1月に大野市小中学校再編計画を策定した。</li> <li>・24時間対応のいじめのメール相談や臨床心理士によるカウンセリング、いじめに対する情報の共有化などいじめ防止の取り組みを強化している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・策定した小中学校再編計画の見直しが決まり、保護者や地域の理解を十分に得ながら、取り組みを進める必要がある。</li> <li>・生涯学習の推進では、学習会や講座の受講者が固定化され、内容や広報の工夫が必要である。</li> <li>・青年活動推進事業や放課後子ども教室事業、学校生活サポート推進事業などについては、人材確保に苦慮している。</li> </ul>

## 基本施策の「成果」

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢や志を育む教育や地域と進める体験事業を推進したことにより、「将来の夢や目標を持っている」子どもの割合が増えた。</li> <li>・いじめ防止対策の強化や学校におけるいじめの早期発見、早期対応等により、子ども達は安心して安全な学校生活を送ることができている。</li> <li>・福井大学との連携により、研修会、研究授業の実施により、ICT機器の活用率が高まった。</li> <li>・結の故郷ふるさと教育推進計画に基づき、家庭やふるさとへの愛着と誇りを養い、結の心を育む講座を生涯学習課・公民館を中心に実施することができた。</li> </ul>
----	---

## 改善点

・小中学校再編計画の見直しのために、保護者や地域からの意見聴取を中心に取り組みを進める。

・生涯学習の学習会や講座の内容について、市民ニーズに合わせて工夫、検討するとともに、各公民館や地域の各種団体と連携を図りながら、生涯学習事業を展開する。

・青年組織で活躍する人材の育成を行うとともに、放課後子ども教室事業における安全管理員や学校生活サポート推進事業におけるボランティアの人材の確保を図る。